

電気用品の技術基準の解説の見直し依頼票

見直し依頼元；（一財）電気安全環境研究所　　担当

見直し依頼日時　　2018 年 5 月 17 日

現状解説（解説本　第 14 版　260 ページ）	見直し案	提案理由
別表第八　2(50)電気冷蔵庫、電気冷凍庫、冷蔵用のショーケースおよび冷凍用のショーケースの解説 3 3. イ項(イ)において、 (1) 別表第十二の基準 J60335-2-24(H20)「家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第2－2 4 部：冷 却 用 機 器、アイスクリーム機器及び製氷機の個別要求事項」（以下「J60335-2-24(H20)」という。）の 22.7 又は別表第十二の基準 J60335-2-89(H20)「家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第2－8 9 部：業務用冷凍冷蔵機器の個別要求事項」（以下「J60335-2-89(H20)」という。）の　22.7　に適合するものは、十分な圧力に耐える構造であるものとみなす。（圧力試験） (2) J60335-2-24(H20)の 22.106　又は J60335-2-89(H20)の 22.105　に適合するものは、冷媒量が少ない構造であるものとみなす。 (3) J60335-2-24(H20)の　22.107、22.107.1　及び 22.107.2　又は J60335-2-89(H20)の　22.106、22.106.1　及び 22.106.2　に適合するものは、保護冷却システム構造であるものとみなす。 (4) J60335-2-24(H20)の 22.108　又は J60335-2-89(H20)の 22.107　に適合するものは、冷媒が漏れた場合に、機器に組み込まれた電気部品により、爆発するおそれがないものとみなす。 (5) J60335-2-24(H20)の 22.109　又は J60335-2-89(H20)の 22.108　に適合するものは、機器はその食品貯蔵庫の外側にある電気部品によって火災又は爆発の原因とならないように、漏れた冷媒が留まらない構造であるものとみなす。 (6) J60335-2-24(H20)の 22.110　又は J60335-2-89(H20)の 22.109　に適合するものは、引火するおそれがない温度であるものとみなす。 (7) J60335-2-24(H20)の7項又は J60335-2-89(H20)の7項において冷媒に関わる要求事項に適合するものは、運搬、サービス、廃棄等のいずれにおいても、安全の確保が十分行われるような表示を施してあるものとみなす。	3. イ項(イ)において、 (1) 別表第十二の基準 J60335-2-24(H29)「家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第2－2 4 部：冷 却 用 機 器、アイスクリーム機器及び製氷機の個別要求事項」（以下「J60335-2-24(H29)」という。）の 22.7 又は別表第十二の基準 J60335-2-89(H20)「家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第2－8 9 部：業務用冷凍冷蔵機器の個別要求事項」（以下「J60335-2-89(H20)」という。）の　22.7　に適合するものは、十分な圧力に耐える構造であるものとみなす。（圧力試験） (2) J60335-2-24(H29)の 22.106　又は J60335-2-89(H20)の 22.105　に適合するものは、冷媒量が少ない構造であるものとみなす。 (3) J60335-2-24(H29)の　22.107、22.107.1、22.107.2　及び 22.107.3　又は J60335-2-89(H20)の　22.106、22.106.1　及び 22.106.2　に適合するものは、保護冷却システム構造であるものとみなす。 (4) J60335-2-24(H29)の 22.108　又は J60335-2-89(H20)の 22.107　に適合するものは、冷媒が漏れた場合に、機器に組み込まれた電気部品により、爆発するおそれがないものとみなす。 (5) J60335-2-24(H29)の 22.109　又は J60335-2-89(H20)の 22.108　に適合するものは、機器はその食品貯蔵庫の外側にある電気部品によって火災又は爆発の原因とならないように、漏れた冷媒が留まらない構造であるものとみなす。 (6) J60335-2-24(H29)の 22.110　又は J60335-2-89(H20)の 22.109　に適合するものは、引火するおそれがない温度であるものとみなす。 (7) J60335-2-24(H29)の7項又は J60335-2-89(H20)の7項において冷媒に関わる要求事項に適合するものは、運搬、サービス、廃棄等のいずれにおいても、安全の確保が十分行われるような表示を施してあるものとみなす。 (8) 当該 J 規格が改正された場合，（1）から(7)で引用する J60335-2-24(H29) 又は J60335-2-89(H20)の項目に対応した項目に該当する, 別表第十二の表-1 電気安全の基準の採用されている版を適用する。	J60335-2-24(H20)が引用する規格の版(IEC60079-15:1987(第 1 版), ISO 817:1974(第 1 版))と、J60335-2-24(H29)が引用する規格の版(IEC60079-15:2010(第 4 版), ISO817:最新版(現在は ISO817:2014+Amd.1:2017(第 3.1 版))とが異なるため、J60335-2-24(H29)で認められる構造が受け入れられない場合がある。 そのため、解説で引用する整合規格を新しい版に修正し、別表第十二で採用している有効な基準の該当する項目に適合するものを受け入れ可能とすることが妥当と考える。

〈当該解釈〉

(50) 電気冷蔵庫、電気冷凍庫、冷蔵用のショーケースおよび冷凍用のショーケース^(解説1)(解説2)

イ 構造

(イ) 油又は冷媒が漏れるおそれのないものであって、かつ、可燃性の冷媒を使用するものにあっては、次に適合すること。^(解説3)

- a 保護冷却システムの保護外郭を含み、機器は、十分な圧力に耐える構造であること。
- b 冷媒量が少ない構造であること。
- c 貯蔵庫内は、保護冷却システム構造であるか又は、冷媒が漏れた場合に、機器に組み込まれた電気部品により、爆発するおそれがないこと。
- d 機器は、その食品貯蔵庫の外側にある電気部品によって火災又は爆発の原因とならないように、漏れた冷媒が留まらない構造であること。
- e 可燃性冷媒にさらされる可能性のある機器の部品の表面は、当該冷媒が引火するおそれがない温度であること。
- f 機器は、運搬、サービス、廃棄等のいずれにおいても、安全の確保が十分行われるような表示を施してあること。